

咲く 掌を上に向けた手の五指の指頭を集め合わせ手をぱっと花咲くように開く。

桜 掌を上向け五指の指頭を右にさした左手の手の首の上に、掌を下向け五指の指頭を左にさした右手の手の首を重ね、互の手の首を軸にして両手をねじって回転させ両手の位置が上下に変わる。

作家（文士） 掌を上向け五指の指頭を右にさし指の間を広く開いた左手の上に、これも掌を上向け五指の指頭を前方にさし指の間を広く開いた右手を重ね、両手の五指で原稿用紙の枘形をつくり、右手で字を書く身振。次に人（男性或い女性）を表わす。

作文 (4) 「作家」の手まねの「人」を省く。(5) 掌を内側に向け指頭を右にさした左手の親指と他の四指を曲げてコの字形をつくり（封筒の口）それへ掌を内側にした右手の五指を指頭からさし入れる。封筒に手紙を封

入する身振り。この手まねは、「手紙」を表わすものであるが、「作文」「綴方」「文章」にも通ずるようになった。

酒 人差指と親指で猪口を持った姿態にして飲む真似をして、掌を横に顎の下を撫で（或は軽く叩いて）その掌で額を一つ軽く叩たく。顎に掌をやるのは、「うまい味」を意味し、額を叩たくのは、ほろ酔いの人がよくする手の身振から来たものか。

避ける 拳にした両手の腕の肘を立て胸の前に併立させて肘ごと左胸脇の方に引き寄せると共に上身体を左に傾ける身をかわず身振である。

匙 人差指と親指の指頭をつけ合わせ匙の柄を持った心得で物をすくう真似をすればよい。

尺 尺を持った手つきで、三十センチ位の間隔をおいた両手を、左へそのまま、物の長

さをはかるような身振りをする。

座敷 畳——どうぞとばかり掌を上向けた

両手を前斜めから引き寄せ——室

雑誌 月刊(月—刷る—本) 週刊(週—刷る—本)

砂糖 「甘い」と同じ手まね。

覚る 「知る」と同じ手まね。

淋しい 額の生えぎわのところ、人差指と親指の指頭を合わせて、一本の髪の毛をつまんで、前へ引き出すようにする。所在なく淋しさに髪の毛を一本つまみ出し考え込む姿
座布団 両手の人差指で小さな四角形を描いて坐るの手まね。

差別 「別」と同じ手まね。

作法 指頭を上にした両手の人差指を胸の前で向い合わせて、同時に両指をかぎ形に曲げる。人がお辞儀し合ってる様を模写したもの。

サボル 「怠け」と同じ。

様々 「いろいろ」と同じ手まね。

寒い 「冬」を見よ。

侍 掌を下に向け、指頭を前方にさした人差指と中指の手を頭の上に置く(ちよんまげ)次に両手の人差指を左腰脇に交叉してつける(刀の二本差し)

醒める 掌を前に向け指頭を前方にさした人差指と親指を閉じ(指頭をつけ合わず)て眼の横につけて、両指をパツと開く。眼が開いたこと。

更に 「一層」と同じ手まね「その上に」とか「重ねる」とか倍にす」とかの意味。

去る 「行く」の叫と同じ手まね。

猿 左手の手甲の上を右手で搔く、猿の習性を表わしたもの。

策 掌を上に向けて、五指を少し彎曲した左右両手を斜めに重ねて、籠の編目をつく